

第160回定期演奏会

# 日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

秋の夜の夢

企画・構成 加藤秀和



2000年 9月20日 (水) 午後7時開演 **バリオホール**

主催 特定非営利活動法人日本音楽集団

助成 文化庁 日本芸術文化振興会 舞台芸術振興事業



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

## program

### 絃歌 (1982年) 肥後一郎作曲 Ichirou Higo : Genka

独奏箏：山田明美

箏Ⅰ：城ヶ崎美保・田村法子 箏Ⅱ：岸川光代・黒澤有美 箏Ⅲ：早川智子・山田由紀

十七絃：宮越圭子・徳野礼子・久本桂子

絃歌とは、琴を弾き詩をうたうという意味である。絃誦ともいう。我々が伝統音楽として持っている箏曲の殆どには声楽が含まれているから、これらは絃歌である、と言えそうだが、絃歌という場合の琴は詩を吟誦するときの伴奏楽器であったと思われるから、歌がうたわれるとはいえ、器楽部分が音楽表現上重要な役割をはたしている箏曲とは聊か意味が異なるのではないかと思う。古代宮中神楽の和琴と歌の関係のような、或いは今でいう「ひきがたり」に近い音楽形態のことではないだろうか。古く、中国でのことである。

「絃歌」には声楽が含まれていない。曲の中間部で独奏箏によって短い無言歌がひっそりと歌われる。小生はこの部分の音楽を小生なりの絃歌として独奏者に託した。題名の所以である。

沢井忠夫合奏団の委嘱を受けて昭和56年の秋から翌年の冬にかけて書いた。(作曲者)

作曲者プロフィール 1940年東京生れ。1962年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。ケインズ経済学を専攻。その間、作曲理論を独学。

### ブルートレイン (1979年) 廣瀬量平作曲 三橋貴風編曲

Ryouhei Hirose : Blue Train

尺八Ⅰ：竹井誠・添川浩史 尺八Ⅱ：宮田耕八朗・米澤浩

尺八Ⅲ：三橋貴風・坂田梁山(助演) 尺八Ⅳ：加藤秀和・素川欣也(助演)

この曲は1979年の9月にフルート・オーケストラの為の委嘱作品として作曲された。原曲ではピッコロフルートⅠⅡ、アルトフルート、バスフルート各2パートの計10パートで書かれているが、今回はその全体を尺八で演奏できるように、ピッコロのパートをオクターブ下げフルートⅠと統合した。バスフルートのパートは2本の三尺六寸管(バスD管)という特殊な尺八により演奏され、また曲の冒頭にある汽笛を描写した高音域のDisとCisの音は短い尺八の上管のみを使ってこれを再現している。曲は協和的で優雅なハーモニーに託して、夜行列車のいささか空想的な、またちよっぴりメランコリックなイメージをロンドの様な形で描いている。この曲を尺八で演奏する試みは1983年尺八ゾリステンにより初演された。

作曲者プロフィール 1930年北海道函館生れ。1953年北海道大学、1959年東京芸術大学卒業。

1961年同専攻科終了。筒井秀武、池内友次郎に師事。芸術祭優秀賞、尾高賞など多数受賞。1997年紫綬褒章受賞。

京都市立芸術大学教授(1977~1996)、日本現代音楽協会委員長(1979~1983)、東京芸術大学講師(1991~1998)を歴任。同志社女子大学講師(1997~)。

作品は「ヴァイオリン協奏曲」「チェロ協奏曲」「クリマ」「カラヴィンカ」などのオーケストラ曲を始め広ジャンルにわたっている。

# 星月夜

委嘱初演 三宅一徳作曲 Kazunori Miyake : Hoshizukuyo

笛：西川浩平 尺八：竹井誠・添川浩史・加藤秀和

十三絃箏：山田明美・田村法子 二十絃箏：黒澤有美 十七絃：城ヶ崎美保・徳野礼子

打楽器：仙堂新太郎・望月太喜之丞・臼杵美智代

秋の季語として使われている「星月夜」(星の光が明るい夜の意)。そんな夜空を求めて山間部に行き星空を見上げる時、その無限に開かれた世界を前に、ふと自我の内面というごく閉ざされた世界を意識している自分に気付く。太陽系を含む銀河系の中だけでも、2000億個(恒星の数のみ)あるといわれているこの輝く星々と、自分という個の存在との距離感に目眩を憶えながら、古来多くの人々が感じてきたであろう哲学を共有する瞬間だ。我々に届けられた、気の遠くなるような距離と時間を経て優しく風化したその輝きは、元を辿れば数千〜数千万度という高温のもと、爆発をくり返し極めてダイナミックな変化を起こしつつある星々の営みに他ならない。そんな星々の織り成す「星づく夜」に喚起された3つのイメージである。(作曲家)

作曲家プロフィール 東京芸術大学作曲科卒業。フルオーケストラのスコアから、シンセサイザーの打ち込み、純邦楽器や民族音楽まで、あらゆる方法で音を紡ぎ出し、各種CM、ドラマはもとより、小室哲哉、YOSHIKI、久石譲、日野皓正、宮本文昭等と様々なフィールドでコラボレーションをこなしている。

# 雨月譜

(1980年) 吉松隆作曲 Takashi Yoshimatsu : U-getsu-fu

尺八：三橋貴風 十七絃：宮越圭子

雨ははれて月おぼろにかすむ夜、座敷のあかり窓の下にて編みつくり、梓氏に渡す。題して雨月物語と云う。(上田秋成「雨月物語」序文より) 曲は春、夏、秋、冬の四枚の譜より成り、尺八と十七絃とが雨と月の如く各固有の軌跡を描きながら重なってゆく。

春はあけぼの、旋律の重なり。夏は夜、ノイズの交錯。秋は夕暮れ、風鈴を伴う尺八の独奏。そして冬は早朝、凍ってゆく低絃のオスティナート。1990年夏作曲。同年秋、菅原久仁義氏の尺八リサイタルにて初演。(作曲家)

作曲家プロフィール いわゆる「現代音楽」の非音楽的な傾向に反発した「世紀末抒情主義」を主唱し、交響曲、協奏曲、室内楽作品、舞台作品、邦楽曲など多くの作品を発表している。作品はそのほとんどがCD化されており、1998年からはイギリスのシャンドスとレジデント・コンポーザーの契約を結び、全オーケストラ作品を録音するプロジェクトが進行中である。

# 大津絵幻想

(1981年) 長沢勝俊作曲 Katsutoshi Nagasawa : Ohtsu-e Fantasy

笛：越智成人 尺八Ⅰ：宮田耕八朗 尺八Ⅱ：竹井誠 尺八Ⅲ：米澤浩

胡弓：多々良香保里 細棹三味線：杵家七三 太棹三味線：山崎千鶴子 琵琶：田原順子

十三絃箏：熊沢栄利子・早川智子 二十絃箏：桜井智永・中垣雅葉 十七絃：大島菜穂子・丸岡映美

打楽器：尾崎太一・望月太喜之丞 指揮：田村文生

「大津絵」とは、江戸時代に近江国で売られていたおみやげ用の民衆絵画のことである。

この作品は、大津絵の中から〈鬼の念仏〉(藤娘)〈瓢箪鯉〉〈長刀弁慶〉〈雷と太鼓〉の五つを選び、その奥深くにひそむ、民衆の誇らない自然の姿と智慧と余裕を、日本楽器の音に託して表現しようと試みられている。1981年第67回定期演奏会で初演。

作曲家プロフィール 1923年東京生れ。作曲を清瀬保二に師事。1964年同人14名と日本音楽集団を結成。

1991年まで団代表をつとめる。主要作品に「子供のための組曲」「萌春」など、他に市川猿之助のスーパー歌舞伎「ヤマトタケル」「オグリ」「八犬伝」「カグヤ」、人形劇団ブークの音楽を担当。現在日本音楽集団名誉代表。

## 【賛助会員】

法人 (株) 全音楽譜出版社	個人 中島靖子	伊藤美恵子	後藤隆	野原清子
(財) 正派邦楽会		植木眞代	後藤陽子	藤澤美恵
(株) 宮本卯之助商店	木津のぶ	江波戸好子	桜田正憲	本田実
		大関富枝	佐々木浩二	水野正徳
	青戸純夫	太田颯衣	柴田寛二	森山俊雄
	青柳堯	大瀧進一郎	杉田和繁	山崎時男
	安達眞五	川壁正	田原たま	渡辺ハル
	飯塚絹子	岸彰則	堤紀江	
	家永和治	工藤秀也	手塚愛子	

2000年9月1日現在

### 賛助会員へのお誘い

昨年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。  
多くの方々からのご支援を仰ぎ、世紀を超えた息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。  
募集の詳細はプログラムにはさんだチラシをご参照ください。

21世紀に手渡す作品群～日本音楽集団35周年CD第三集

来る第161定期演奏会～11月22日(水)会場にて発売開始決定！！

収録曲「大津絵幻想」「春の一日」(長沢勝俊作曲)、「文様Ⅰ、Ⅱ」(三木稔作曲)、「新千鳥の曲」(秋岸寛久編曲、尾崎太一手付)

特定非営利活動法人日本音楽集団 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 3-17-1 滝沢ビル 302号

TEL 03-3378-4741 Fax 03-3376-2033 URL <http://www.promusica.or.jp/> mailto:office@promusica.or.jp

# 箏

## 二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

# 琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437